

鈴木 文孝 著

増補 カント研究の締めくくり

著者の永年の『純粹理性批判』の研究を中心に置きながら、カント解釈を古典物理学から20世紀現代物理学へのパラダイムシフトといった優れて広い視座から研究した、いわば著者による哲学研究の研究史的自伝です。本書はその補遺です。

鈴木 文孝（すずき ふみたか）

1940年静岡県生まれ。1963年、東京教育大学文学部卒業。1965年、東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。1970年、東京大学大学院人文科学研究科博士課程を学科課程修了にて満期退学。その間、昭和43年度、昭和44年度日本学術振興会奨励研究員。2004年、愛知教育大学教授。教育学部を定年により退職。現在、愛知教育大学名誉教授、文学博士（筑波大学）。

【目次】

- 序章
- 第1章 『カントの批判哲学と自我論』の執筆を終えて
- 第2章 「超越論的弁証論」をめぐる
- 第3章 『純粹理性批判』第二版の「コーギト」
- 第4章 『純粹理性批判』とコペルニクス的転回
- 第5章 「パラダイム」をめぐる
- 第6章 現代物理学に学んで
- 第7章 関連事項の解説
- 終章
- 補論
- 補論1 『純粹理性批判』第二版の「純粹理性の誤謬推理にすいて」の章に関する注解
- 補論2 Notes on the footnotes to the chapter 'Of the Paralogisms of Pure Reason' of the Critique of Reason on pages B422-423 and B414-415
- 補論3 「カント批判哲学の倫理学的研究」
- 補論4 「「我在り」という個別的表象」という言葉について

【著書】

- 『若き荷風の文学と思想』（以文社、1995年）
- 『カントとともに—カント研究の総仕上げ』（以文社、2009年）
- 『永井荷風の批判的審美主義—特に艶情小説を巡って』（以文社、2010年）
- 『諦めの哲学』（以文社、2011年）
- 『西洋近代哲学とその形成』（以文社、2013年）
- 『カントの批判哲学と自我論』（以文社、2015年）
- 『The Critical Philosophy of Immanuel Kant and His Theory of the Ego』（以文社、2015年）

[付記]

参考文献

四六判 上製カバー装 128頁 本体価格：1,200円（定価：1,296円）

希望陳列コーナー：哲学・倫理学

以文社 ISBN 978-4-7531-0332-4 C3010 本体価格：1,200円（定価：1,296円）

| 帳合・番線 | ご希望冊数 | 書名 |
|-------|-------|--------------------------------------|
| | | 増補 カント研究の締めくくり 鈴木 文孝 著 |

※こちらの書籍は注文書籍です。FAXまたは電話にてご返信お願い致します。